

Sea front

【シーフロント：海岸通り】

1945年±5年

2016年

5月21日|土|~7月3日|日|

※前期(～6月12日)と後期(6月14日～)で一部内容が変わります。

激動と復興の時代

時代を生きぬいた

作品

展覧会タイトルが少しかわっているのも、まず、それについてご説明しましょう。日本がアジア・太平洋戦争で敗戦を迎えた1945年をあいだにはさんで、その前後5年間の美術品をとりあげる展覧会です。つまり、1940年から1950年までに制作された、油彩画を中心とした作品を展覧します。1940年展といってもよいのですが、1950年を含むので、このようなタイトルになったわけです。

1940年代を扱った展覧会は、3年前の神奈川県立近代美術館(葉山館)、昨年三重県立美術館、栃木県立美術館と立て続けに開催されました。でも、それ以前はごくまれな例しかありませんでした。戦中と戦後のあいだで体制や社会、価値基準に大きな断絶があるので、両方をまたぐ展覧会は、容易ではないと考えられたからだと思います。でも、歴史学その他では1940年代を連続的に見る視点が設けられてきましたし、従来のようなイデオロギー的な観点ではない捉え方も行われていて、1940年代に対する見方はずいぶん変わってきました。本展も、こうした近年の考えや展覧会に多くを負っています。断絶と連続、この両方に目配りしながら企画しているところです。

こうした見方をとるとき、1940年代は、日本の近代において最も激動の時代だったということが出来ます。その意味では、原発事故や経済、外交上の問題などで不穏な現代にとっても、参考になることがあるかもしれません。社会や状況が大きく変動する中では、美術が新しい表現を生み出す素地や余裕は十分とはいえません(とくに戦中は厳しい統制がありました)。それでも、作家たちの創作意欲は持続していました。ただ、新しい表現よりも、時代とどのように関わるかが重要だったように思われます。もちろん、時代との関わりとは、時代と密接になることと、距離を置くことの両方があるでしょう。その両方に美術の持つ写真と虚構が絡んでいたのです。こうした様々な、複雑な活動を、約70名の作家による約200点でご紹介します。

企画者としては、まずなによりも、展覧会全体で大きな流れを感じていただければと思っています。戦中と戦後の両方に出品している作家もいますし、モチーフや表現が変化した人とそうでない人もいます。様々な動きを見せながら、時代は流れています。



香月泰男《ハイル通信 第11信》
1943年 香月泰男美術館蔵

個々の作品でとくに注目していただきたいものがあります。昨年、亡くなられた水木しげるが、戦後間もない捕虜時代に描いた素描数点。もしかすると、片腕になってはじめて描いたものかもしれません。それらからは戦争が終わったことの喜びが溢れています。〈シベリア・シリーズ〉で有名な香月泰男が、「満州国」のハイルから家族に送った、絵を添えたはがき、いわゆる〈ハイル通信〉(1943～1945年)は、今回、はじめて香月美術館から外に出て展示されることになりました。家族への愛情あふれる文章と、中国東北の美しい風景を捉えた画家の眼差しの両方をご覧ください。さらに、戦時中、女流美術家たちが共同で描いた《大東亜戦皇国婦女皆働之図(春夏の部)》(1944年 笹崎宮所蔵)は、近年、研究書や普及版の新書が出版されたこともあって、何十年ぶりかでの公開が決まりました。これらのほかにも珍しい作品などが出品されています。ぜひご覧下さい。

(出原均/当館学芸員)



鶴岡政男《重い手》1949年 東京都現代美術館蔵

友の会行事のお知らせ

友の会優先席ご案内

生誕180年記念「富岡鉄斎—近代への架け橋—展」記念講演会

松岡正剛氏講演会『鉄斎と山水』

2016年4月17日(日) 14:00～

場 所：当館ミュージアムホール(当日先着順/入場無料)

※お席はこちらで指定させていただきます。

講 師：松岡正剛氏(作家、編集工学研究所所長、ISIS編集学校校長)

募集席数：10席

申込方法：お名前、会員番号、「優先席参加希望」とご記入の上、

FAXまたは、Eメールにてお申し込みください。

申 込 先：FAX:078-262-0903

Eメール: tomonokai@artm.pref.hyogo.jp

受付締切：4月12日(火)必着 ※応募者多数の場合は抽選

今世紀に入ってから、インターネットサイトの「千夜千冊」で有名な松岡正剛氏(1944～)は京都市生まれ。雑誌『遊』というのもありましたね。松岡氏には、本展図録にも寄稿していただきました。書面骨董の好きなお父様と、若き日の鉄斎の庇護者・太田垣蓮月の歌と書に憧れていたお母様の間に生まれた氏は、なんでも「鉄斎にめろめろ」なんだそうです。鉄斎が「ひいおじいちゃんみたいに好き!」な現代の碩学・松岡正剛氏の肉声(いや、もちろんお話の内容も)是非ご体験ください。

美術館の日関連イベント

「友の会へようこそ」

2016年4月23日(土)、24日(日) 両日とも10:00～16:00

場所：館内エントランス

HAT神戸に兵庫県立美術館が開館したのは平成14年4月のこと。これを記念して、様々なイベントが楽しめる「美術館の日」を開催します。友の会では、入会受付ブースを出すほか、多彩な友の会の活動を展示でご紹介いたします。友の会の特設ブースにお越しの会員の方に、すてきなグッズをプレゼントします!

※くわしくはチラシへ→

平成28年度

芸術の館友の会「総会」

2016年5月29日(日) 13:00～14:00

場所：当館レクチャールーム

総会は、平成28年度の友の会の運営について決定するものです。会員の皆さまからのご意見をもとに計画された28年度の事業計画案と予算案が提出され、審議されます。多数のご出席をお待ちしております。4/30(土)までに、同封のはがきにて出欠をお知らせください。4/30以降は、電話、メール、FAXにてご連絡ください。(事務局)

総会記念事業 小林公学芸員によるアートトーク

「ドイツ、デュッセルドルフ。シューメーカー・ハウスでの3ヶ月」

2016年5月29日(日) 14:30～(予定)

※総会終了後に開催するため変更の可能性あり

場所：当館レクチャールーム

講師：小林公(当館学芸員)

総会後、小林公学芸員によるアートトークを開催します。昨年9月1日から12月2日までドイツ研修に行かれていた際のこぼれ話など貴重なお話をさせていただきます。この機会を是非お見逃し無く!

※くわしくはチラシへ→

横尾忠則展

わたしのポップと戦争

2016年4月16日(土)～7月18日(月・祝)

横尾忠則現代美術館

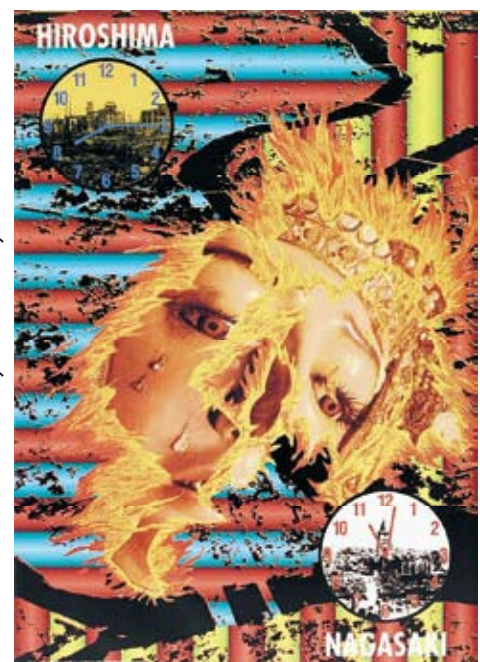
「横尾忠則展 わたしのポップと戦争」は二部構成の展覧会です。

第1部「戦争」では、横尾の戦争体験が反映された作品をご紹介します。1936(昭和11)年生まれ、横尾にとって、第二次世界大戦は小学校低学年ころの出来事でした。郷里の西脇が空襲による破壊を免れたこともあり、横尾にとっての戦争体験はどこか情緒的でノスタルジックなものとなりました。山むこうの明石の空襲を反映して真っ赤に染まった夜空や、サーチライトに浮かびあがるB29爆撃機など、戦争の記憶が直接的、間接的に反映された絵画などから構成します。

第2部「ポップ」では、横尾がグラフィックデザイナーだった1960～70年代の作品をご紹介します。横尾はモダニズム的なポップアートの表現と、それとは対照的な前近代的なモチーフが反発しあうエネルギーを巧みに利用しています。大量消費社会を批判するために個性を希薄化させたポップアートとは対照的に、横尾の作品には幼少期を過ごした郷里西脇における個人的な体験が色濃く反映されています。それは大量生産される印刷媒体によって、世界の隅々にまで自己を拡大したいという欲求に裏付けられていました。

「ポップ」と「戦争」は共に20世紀の物質文明の産物であり、コインの裏表のような関係にあります。それらをアーティスト横尾忠則の視点から読み直すとき、果たして何がみえてくるのでしょうか。

(山本淳夫/横尾忠則現代美術館学芸員)



横尾忠則「HIROSHIMA-NAGASAKI」1995年
横尾忠則現代美術館蔵

中西 勝展 画業と生涯を偲んで — 兵庫県所蔵作品を中心に —

作品受贈にいたるまでについてお話しします

当館と兵庫県は、昨年5月に亡くなった中西勝(1924 - 2015)から、生前に作品の寄贈を受けました。ご本人から寄贈申出があったのが、お亡くなりになる約1年前のことだったと記憶します。神戸市にも同時に寄贈の申し出をされていたので、神戸市立美術館の学芸員の方と一緒にアトリエ調査にうかがいました。アトリエには、生涯にわたる作品の大半が保管され、少々ほこりっぽかったのですが、保管状態は悪くはありませんでした。作品写真を貼りこんだカードも用意されていて、ご自身の画業を整理して、後世に作品を残そうとする意欲のなみなみならぬものを感じました。いくつかの検討の段階を経て、1994(平成6)年の池田21世紀美術館と、2009(平成21)年の神戸市立小磯記念美術館での回顧展への出品作を中心に寄贈作品を選ぶことになりました。そして、兵庫県と神戸市に50点ずつ、当館に3点の寄贈作品リストができたのは、一昨年(2017)の12月頃のことでした。

当館では、前身の近代美術館開館まもない1971(昭和46)年に《日本アクロバット》(1956年)を収蔵し、その後、現在の美術館開館前年の2001(平成13)年に《棲まう(ソピロテ)》(1978年)と《黒い聖母子》(1972年)を伊藤文化財団から、平成24年度には《豚のいる風景》(1967年)を別の方からのご寄贈で収蔵していました。この4点の作品のうち前者3点は、収蔵の経緯からいって作品の選定には作者の意思が反映されていると思われる。実際、本人の資質のよく表れた、そして

妥協のない作品です。《豚のいる風景》も、同図のさらに大きな二紀展出品作が1976(昭和51)年に描かれています。当館所蔵品は世界旅行の途上、まさに現地で描かれたもので、小品ながら初発性の強い、旅の感動が直截に伝わる佳品です。つまり、学芸員的な言い方でいうと、当館は「よい」作品をすでに収蔵していたわけで、さらに作品を増やすとすれば、これらに匹敵し、4点では追い切れていない時期の作品、あるいは制作の幅をみせる作品によってでしかありません。ということで、最初期の代表作で出世作《無題》(1949年)と、《日本アクロバット》から展開しつつ別の感情と画面構成をみせる《ウム(鳥)》(1962年)、《棲まう(ソピロテ)》と同時期、同主題の作品ですが、この大きさでは珍しい、町を描いた風景画で、生活感と不思議な寂寥感が忘れがたい《棲まう(A)》(1977年)を美術館でいただくことにしました。厳選ですが、これら当館収蔵全7点で、端的に中西勝の画業と芸術がうかがえるようになったと思います。

(西田桐子 / 当館学芸員)



《棲まう(ソピロテ)》1978年

美術館をのぞく Part2 教育支援・事業グループ

さて、美術館の中の各部署を紹介するこのコーナー、実に10年ぶりにPart2として期間限定でかえってきました。

以前よりご愛読いただいている会員さまの中には、懐かしい〜と思われる方もいらっしゃるかもしれません。より美術館に親しみを感じていただけるよう、会員のみなさまにもう一度美術館をのぞいていただきたいと思えます。

記念すべき第一回は、友の会も所属する「教育支援・事業グループ」をのぞきます。

教育支援・事業グループは、総勢12名のグループです。貸館業務、学校団体の対応やこどものイベント、トライやる・ウィーク、一時保育、美術講座の開講、県展、博物館実習など業務内容はさまざま。1年をとおして行われる目白押しのイベントのほとんどを担っています。土曜日のコンサートや、映画、寄席を担当する『アートフュージョン実行委員会』が所属するのも当グループです。グループには、学校団体鑑賞やこどものイベントを担当する『ミュージアム・ティーチャー』2名や、3名の学芸員その他、指導主事や行政職の職員などさまざまなスタッフが所属しそれぞれの業務を担当しているのも特徴的です。展覧会とは違った角度から多くの人に美術館を知っていただくために、日々忙しく働くグループです。



「アートな風を作ってあげよう」のようす



「アートフュージョン実行委員会」によるコンサート一景

新しい学芸員を紹介します!

● 名前
村田大輔(むらた・だいすけ)

● 出身地
大阪府高槻市で生まれて、茨木市で育ち、大阪・兵庫・海外の学校に通いました。

● 経歴
2003年から2013年まで金沢21世紀美術館、
2013年から2015年までは富山市ガラス美術館で働きました。

● 研究分野
近現代の美術・工芸。



● 好きなアーティスト

ロス・ブレイクナーの絵画、杉本博司の写真、八木一夫、高橋禎彦のオブジェ、岸本清子のパフォーマンスや絵画など、たくさんあります。ロン・ミュエックの作品は特別な存在です。

● イチオンの美術館

アメリカのテキサス州にあるキンベル美術館(Kimbell Art Museum)、フォートワース現代美術館(Modern Art Museum of Fort Worth)が特に印象に残っています。フォートワースは安藤建築です。

● 趣味

音楽活動とジョギング。

● 友の会のみなさまへひとこと

昨年の11月に兵庫県立美術館の学芸員に着任いたしました。これから展覧会やイベントなどをおして、芸術と芸術家と美術館のことを大切に思っている皆様からたくさんのお話を学んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

近隣展覧会情報

施設名/連絡先	展覧会名	会期	休館日
横尾忠則現代美術館* ☎078-855-5607	・横尾忠則展 わたしのポップと戦争	4/16(土)~7/18(月・祝)	月 曜 (祝日の場合は翌日休館) 7/18(月・祝)は開館
BBプラザ美術館 ☎078-802-9286	・甲南学園ゆかりの作家たち 長谷川三郎と菅井汲 抽象への眼差し	4/5(火)~6/5(日)	月 曜 (祝日の場合は翌日休館) 3/7(月)~4/4(月)は開館
神戸市立博物館 ☎078-391-0035	・我が名は鶴亭一若冲、大雅も憧れた花鳥画!? ・西洋との出会い ・井茂圭洞の書	4/9(土)~5/29(日) 4/9(土)~5/29(日) 4/9(土)~5/8(日)	月 曜 (祝日の場合は翌日休館)
西宮市大谷記念美術館 ☎0798-33-0164	・スイスデザイン展	4/2(土)~5/29(日)	水 曜 (祝日の場合は翌日休館)
芦屋市立美術博物館 ☎0797-38-5432	・具体美術協会/1950年代 ・コレクション展 芦屋の歴史と文化財	4/16(土)~6/19(日) 4/16(土)~11/27(日)	月 曜 (祝日の場合は翌日休館)
伊丹市立美術館 ☎072-772-7447	・エドワード・ゴリーの優雅な秘密展 ・伊丹美術協会展(入場無料)	4/2(土)~5/15(日) 5/22(日)~6/5(日)	月 曜 (祝日の場合は翌日休館)
尼崎市総合文化センター美術ホール ☎06-6487-0806	・白髪一雄の愛したもたちの	4/29(金)~9/4(日) (白髪一雄記念室で開催)	会期中無休、 ただし8/16(火)のみ臨時休館
兵庫県立歴史博物館* ☎079-288-9011	・歴史をいろどる群像 一館蔵コレクションにみる一	4/23(土)~6/19(日)	月 曜 (祝日の場合は翌日休館)
姫路市立美術館* ☎079-222-2288	・郷愁と未来の輝き 一クレパス名画展	4/9(土)~6/19(日)	月 曜 (祝日の場合は翌日休館)
兵庫陶芸美術館* ☎079-597-3961	・明治有田 超絶の美 万国博覧会の時代一 ・色絵よもやま話 一兵庫のやきものから一	3/19(土)~6/5(日) 3/8(火)~6/26(日)	月 曜 (祝日の場合は翌日休館) 5/2(月)は開館、5/6(金)は休館
滋賀県立近代美術館 ☎077-543-2111	・時と風景 一未来をつなぐコレクション ・滋賀の工芸 ・色と形のリズム	4/23(土)~6/26(日) 3/29(火)~5/15(日) 3/29(火)~6/26(日)	月 曜 (祝日の場合は翌日休館)

*印がついている施設では、会員証の提示で割引などの特典が受けられます。上記の展覧会内容、休館日等は、各施設の都合により変更になる場合があります。詳しくは、各施設にお問い合わせください。

橋本学芸員のオススメアート情報

瀬戸内国際芸術祭2016

春3/20-4/17, 夏7/18-9/4, 秋10/8-11/6

今年より保存修復のお道具拝見と学芸員のオススメ情報を交互に掲載いたします。近年、多くの地域で行なわれるアートイベントの中で、瀬戸内の最大の特徴は島が舞台であること。神戸から海を隔ててすぐですが、島の移動は天候に大きく左右される船ですので、時間に余裕を持ち「積み残し」にならないようご注意ください。

友の会のみなさんへのおすすめは、直島の安藤建築はもちろん、当館収蔵作家では、男木島の山口啓介さん、大岩オスカルさん、小豆島のヤノベケンジさん、豊島横尾館の横尾忠則さん。国立ハンセン病療養所のある大島はこの機会に足を運んでいただきたい島のひとつです(当館コレクションの舟越保武作《ダミアン神父》に思いをはせつつ)。それから、「フルーツ・オブ・パッション」展で記憶に新しいアンリ・サラ(豊島)やツェ・スーメイ(本島)の新作発表もあります。屋外の作品を探して歩くだけでそれぞれの島の魅力も感じることができるはずです。熱中症に気をつけて、島のアート探索をお楽しみください。



ヤノベケンジ(スター・アングァー)撮影:高橋公人

(橋本こずえ/当館学芸員)

お知らせ

KEN-Vi名画サロン 映画上映お知らせ

「アリスのまま」

2016年4月9日(土) ①10:30 ②13:00 ③15:30

若年性アルツハイマー病と診断されたアリスの苦悩と葛藤。そして家族との絆を描く人間ドラマ。若年性アルツハイマー症と診断され、家族の介護もむなし、アリスの記憶や知識は日々薄れていく。記憶が薄れる前に自らパソコンに残したビデオ・メッセージを発見し、自分が自分でいられるために、画面の中の自分が語ることを実行しようとする。全米ベストセラー小説を映画化した本作品をぜひ友の会会員価格でご鑑賞ください!

●次回上映は…「椿姫」2016年5月20日(金) ①10:30 ②13:00 ③15:30



©2014 BSM Studio. All Rights Reserved.

みんなの投稿コーナー

2010年の本誌で実施していた本コーナーが期間限定で復活です。お題に沿って会員のみなさんからのメッセージをご紹介します。メッセージ(80文字以内)に氏名またはインisialを添えて、友の会事務局「みんなの投稿コーナー係」までお寄せください。締切りは、4月30日(土)。メール・FAX・郵送・友の会カウンターで受け付けています。※誌面の都合上、こちらで編集する場合がございます。

●4月号のお題 今年こそ行きたい!美術館

叶うか叶わないかわからないけど今年こそは行くぞ!と心に秘めている美術館を教えてください。

友の会職員:宮崎恵美(みやざき・えみ)

出身は、高知県四万十市(旧中村市)です。ジャック・タチ、グザヴィエ・ドラン、神代辰巳、濱口竜介、映画監督作品が好きです。美術館ではないですが、フィギュアと河童が沢山いる「へんびなミュージアム」海洋堂ホビー館四万十がイチオシです。友の会のみなさま、いつも応援いただきありがとうございます!!1年越しの自己紹介となりましたが、イベントの集合時などはこの顔を目印としてきてください(笑)。引き続きどうぞ宜しくお願いいたします。



編集後記

会報誌の内容を少しリニューアルし、新年度スタートです。みなさまの投稿コーナーも期間限定復活しましたので、どうぞご応募くださいませ。28年度も友の会をどうぞ宜しくお願いいたします!

(宮崎/事務局)

兵庫県立美術館 「芸術の館友の会」会報誌

Sea front Vol.83
2016年4月1日発行
編集・発行/兵庫県立美術館
「芸術の館友の会」事務局
〒651-0073 神戸市中央区臨海海岸通1-1-1
TEL: 078-262-0916
FAX: 078-262-0903
http://www.artm.pref.hyogo.jp
E-mail:tomonokai@artm.pref.hyogo.jp

次号は2016年6月発行予定です。

ウェブ版パスワード BP5319